令和６年３月発行

地域連携だより Face to Face

第 49 号

役職等はすべて取材日時点のものです。

- 「地域連携だより Face to Face」は、紙面版「顔の見える会議」をコンセプトとした、主に医療職・介護関係職などの、ケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指しています。
- 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する皆様の取組を広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

令和５年度厚労省モデル事業

保険者とかかりつけ医等の協働による加入者の予防健康づくり事業

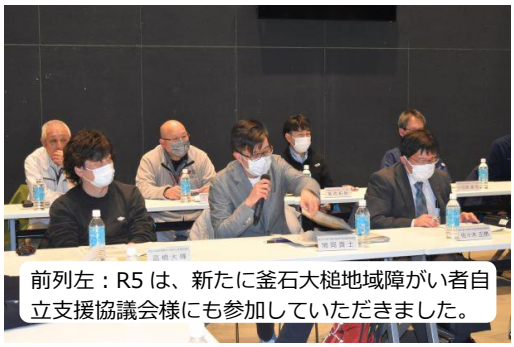
釜石市包括的支援の仕組みづくり事業推進検討会開催

２月 14 日、令和５年度第１回釜石市包括的支援の仕組みづくり事業推進検討会が開催されました。当検討会は、厚労省モデル事業の推進に向けた検討を行うことを目的として令和４年度に設置されたものです。

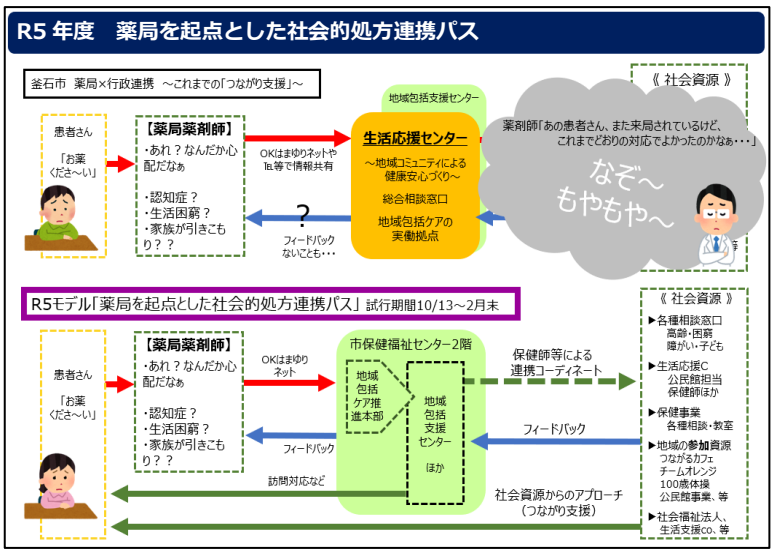
委員には、市地域包括ケア推進アドバイザーの寺田先生（釜石医師会理事）、後藤先生（東海大学准教授）をはじめ、多職種起点の社会的処方を各立場（職種）において実践する可能性も含めて検討するため、医歯薬の職能団体、病院、福祉や地域づくりの関係者等により構成されています。また、地域包括ケアシステム充実に資する庁内連携推進のために、各地区生活応援センター所長及び関係部課長がオブザーバーとして出席しています。

令和５年度事業においては、釜石医師会や釜石薬剤師会と連携した社会的処方連携パスを運用しており、今回の会議では、この２年間の取組の総括と、薬局起点の連携パスによる地域包括支援センターをハブとした対応事例が紹介されました。

質疑応答の中で、実際にパスの運用に関わった薬剤師からは、『今回の取組全体を通じて、情報提供のその先が見えた。薬剤師の職能はリンクワーカーに向いていると思う。』という発言があったほか、地域包括支援センターにとっては薬剤師の専門性とSDH（健康の社会的決定要因）を意識した情報提供が介入時期の判断や支援の幅を拡げるものであり、非常に有益であったことが共有されました。



前列左：R5 は、新たに釜石大槌地域障がい者自立支援協議会様にも参加していただきました。



【３つの社会的処方連携パス概要】

釜石医師会との連携による

①健診を起点とした社会的処方連携パス
　対象：市の健診でＣ判定だった方

②受診を起点とした社会的処方連携パス
　対象：75 歳以上の方、又は年齢を問わず社会的処方が必要な方

釜石薬剤師会との連携による

③薬局を起点とした社会的処方連携パス
　対象：薬だけでは改善しないと感じた方、見守りが必要な方等

社会的処方…課題を抱える方に対して、地域活動やサービス等へのつながりを支援することで、本人の健康や幸福度の向上を目指す取組です。

令和５年度かまいし地域づくりフォーラム開催

10 月 28 日、釜石市民ホール TETTO を会場に、「地域のつながり」を処方することで、健康課題を解決しようとする社会的処方を契機とした、住民の社会参加と地域づくりを推進するためのフォーラムが開催されました。

社会的処方をテーマに含むフォーラムは、昨年に続き２回目の開催となります。

基調講演では、当市の地域包括ケア推進アドバイザーの後藤純氏（東海大学建築都市学部建築学科准教授）が、「新時代の地域コミュニティ形成 ～まちをつなぎ治す５つのポイント～」と題して、地域活動の拠点となる市内８カ所の生活応援センターの重要性やこれからの地域づくりのポイントについてお話されました。

右：ファシリテーターを務める後藤先生

まちをつなぎ治す５つのポイント
❶子供の教育への再投資　❷公共（対話）の場・交流機会の再生
❸市民参加の促進　❹地域包括ケアの推進
❺自己実現を支える地域社会

認知症理解のための寸劇「家がわからない」

地域の取組紹介では、平田地区生活応援センターを拠点とした「つながるカフェ」の活動内容や成果と、小佐野地区生活応援センターを拠点とした認知症サポーター「チームオレンジ・ささのジュニア」の取組背景や経緯等が発表されたほか、活動紹介の一環として認知症理解のための寸劇が披露されました。また、本年度初の取組として、屋外ブースが設置され、各地区生活応援センターのパネル展示による活動紹介や物品販売なども行われ、多くの市民がお互いの活動を知り、今後の活動のヒントと刺激を持ち帰る機会となりました。

釜石地区生活応援センターを拠点とした
取組「ばしょまえ農園」の皆さん

令和５年度チームかまいし 在宅医療・救急医療連携推進事業 打合せ会

１月 31 日、在宅医療・救急医療連携推進に関する打合せ会を開催しました。当事業は、令和２年度から厚生労働省「在宅医療・救急医療連携に関する調査・セミナー事業」への参加をきっかけに、在宅医療・救急医療関係者（県立釜石病院、釜石ファミリークリニック、消防本部）及び行政が一同に会し、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する最近の動向や先進事例について学ぶとともに、地域における現状や課題を共有し、在宅医療・救急医療連携に関する地域のコンセンサス形成の機会として実施しています。

今回は、地域包括支援センターをメンバーに迎え、令和２年度当初に役割分担した内容や進捗等について共有し、改めて地域の現状や課題について意見交換を行いました。

共有された課題	担　当
❶終末期患者の病院×在宅リレーの円滑化	病院・診療所
❷人生会議の普及啓発	行政・病院
❸DNAR搬送に係るルールの検討など	消防本部
在宅医療・救急医療連携に資する既存の資源（再確認）	
・緊急医療情報キット（命のきずなカプセル） ・OKはまゆりネット ・釜石地域メディカルコントロール協議会 ・岩手県医師会のACPに関する取組	

DNAR… Do Not Attempt Resuscitation 蘇生処置の拒否

令和５年度第１回釜石市権利擁護研修会

10 月 19 日、釜石大槌地域の医療介護に関わる職員等を対象に、高齢者に限らず誰もが「自分らしく今をよりよく生きるため」の終活について学ぶことを目的とした研修会が開催されました。

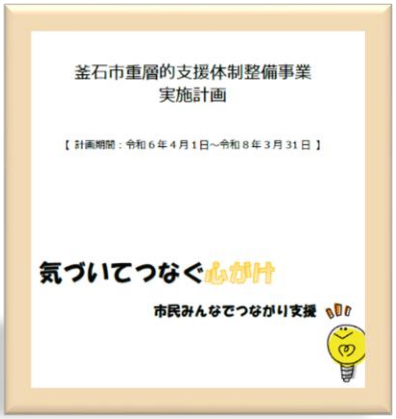
＝研修プログラム＝
1.講演：「意思決定支援から人生会議・終活を考える」
講師：釜石ひまわり基金法律事務所
弁護士　細川恵喜氏
2.講演：「人生会議～最期までその人らしく生きるために私達ができること～」
講師：岩手県立釜石病院
緩和ケア認定看護師　西明子氏

釜石ひまわり基金法律事務所　細川弁護士

岩手県立釜石病院　西緩和ケア認定看護師

終活には、能力低下後の備えと死亡後の備えの２つのステージがあり、備えとして財産管理契約や任意後見制度等について説明があったほか、手続を選択する際のヒントとして「終活ノート」の活用等について説明がありました。また、人生会議（ACP＝アドバンス・ケア・プランニング）の話し合いのためには、傾聴と共感が必要な事などをお話していただきました。

演習では、自らの余命が半年と言われた時、最期はどうしたいのかを考える「もしバナゲーム」の実践講習と事例検討を行いました。どちらも多職種がそれぞれの立場で意見交換を行い、ともに考える機会となりました。



釜石市重層的支援体制整備事業実施計画策定しました。

市では、複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するために、これまでの市の体制や取組を体系的に整理し、さらに効果的な取組とするために『釜石市重層的支援体制整備事業実施計画』を策定しました。

釜石市らしい多職種連携のネットワークを活かし、地域を構成する全ての人々が主役となり、お互いを思いやる心を持ちながら、支え合い、助け合うことが出来る地域共生社会の実現を目指して取組を推進して参ります。

地域医療連携推進　　佐々木輝夫先生　ありがとうございました!!

岩手県立釜石病院の佐々木輝夫先生（脳神経外科長）が、この３月に退職されることとなりました。

輝夫先生は、2013 年（平成 25 年）４月に、釜石病院に着任され、釜石大槌医療圏の中核病院の地域医療福祉連携室長として長きにわたり、当圏域の地域医療・介護・福祉の連携推進に精力的に取り組んでこられました。

特に、当地域の医療介護連携推進の両輪となる OK はまゆりネットの普及啓発と利活用推進や、OK スクラムねっと（釜石・大槌地域医療介護福祉多職種連携の会）の設立と運営に、大きく貢献されました。心より感謝を申し上げますと共に、今後のご活躍をご祈念いたします。

輝夫先生から一言ごあいさつ

これまで、ご協力ありがとうございました。４月からは北上済生会病院でがんばります。

ちーむ
かまいしより

市民みんなで つながり支援
「福祉のまちつながりサポーター養成講座」実施団体募集！

市では、地域共生社会を目指し、地域で支え合う福祉への関心のきっかけづくりのために、令和５年９月から「福祉のまちつながりサポーター養成講座」を市内各地で実施しています。

つながりの効果

『孤立』には、たばこやお酒、肥満を上回るリスクがあると言われています。趣味のサークルや地域のサロンなどの参加資源につながって共におしゃべりしたり、身体を動かしたりすることや、各種相談窓口等につながり、健康や生活上の役立つ情報を入手したりすることで、結果的に well-being（健康、福祉、幸福）の向上が期待できます。

講座の所要時間は 20～30 分程度

講座では、市職員（高齢介護福祉課、地域包括支援センター、生活応援センター等）または生活支援コーディネーター（以下、「SC」という。）が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、困りごとがある高齢者等への「気づき・関わり方・心がけのポイント」や「相談先」について、テキストを用いてわかりやすく説明いたします。

令和5年度実施団体一覧

回数	実施日	実施対象団体等	人数	男性	女性
1	9.28	中妻サロン会	12	4	8
2	10.3	岩手県建築住宅センター	6	3	3
3	10.3	在宅介護C連絡会議	15	4	11
4	11.9	保健福祉部職員	24	7	17
5	11.1	東釜石地区民協	13	3	10
6	11.1	甲子地区住民	25	2	23
7	11.3	橋野百笑クラブ	12	6	6
8	11.3	釜石警察署	24	23	1
9	12.1	中村友幸クラブ	9	0	9
10	12.4	平田はまなすの会	8	2	6
11	12.4	理容生活衛生同業組合	31	10	21
12	12.1	砂子畑さんあいクラブ	7	2	5
13	12.1	おとなりさん倶楽部	12	2	10
14	1.30	チームオレンジ・はまぼうふう	26	7	19
15	2.6	チームおれんじ・とうに	46	4	42
16	3.13	大只越1号復興住宅	7	3	4
17	3.15	のぞみさろん	6	0	6
18	3.18	ひまわり会	21	3	18
		合計	304	85	219

1.30 実施「チームオレンジ・はまぼうふう」の皆さんを対象とした講座の様子

求む！気づいてつなぐ「心がけ」

受講者にはサポーター証が交付されます。サポーターに求められるのは、「何かやってほしい」という役割ではなく気づいてつなぐ「心がけ」です。

受講を希望する場合は、下記の問い合わせ先か、各地区生活応援センターまたは SC にお声がけください。

問い合わせ先：高齢介護福祉課　TEL:22-0178
地域包括支援センター　TEL:22-2620

「つながる資源リスト」作成いたしました

市では、各地区生活応援センターや SC が把握している生涯学習資源（地域の社会参加資源）を中心として、活動団体と直接面識がない多職種でも安心して社会的処方に活用できる資源、かつ、生活応援センター関係者（職員・サポーター等）や SC と顔の見える関係性にある資源に絞った「つながる資源リスト」を市の HP で公開しています。どうぞご活用ください。

つながる資源リスト
QR コード

令和５年度チームかまいし連携手法・その他取組紹介

令和５年５月に新型コロナウイルス感染症が５類に移行した影響もあり、チームかまいしの連携手法や社会的処方等に関する取組紹介の機会が増えました。来釜された皆様ほか、研修会での講演依頼等、お声がけいただきましてありがとうございました。令和６年度も地道にコツコツと取り組んで参ります。

《研修会等での紹介》
５月 東京大学大学院「東大まちづくり大学院」
11 月 岩手県「市町村職員等在宅医療・介護連携研修」実務研修
12 月 千葉県「在宅医療・介護連携推進事業に係る市町村研修」
１月 厚労省「地域づくり加速化事業」北海道ブロック研修
１月 厚労省「在宅医療・救急医療連携にかかるセミナー（千葉市）」

《視察等での紹介》
10 月 東北アルフレッサ㈱さま
10 月 獨協医科大学医学部学生さま
11 月 宮崎県新富町議会さま
３月 岩手県医療的ケア児支援センターさま
ほか

【発行】在宅医療連携拠点チームかまいし
〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号　釜石市地域包括ケア推進本部事務局
TEL 0193-55-4536　FAX 0193-22-6375　E-mail kea@city.kamaishi.iwate.jp
【HP】https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/
【FB】https://www.facebook.com/teamkamaishi/
QR コード読み取りでスマホからアクセスできます→
ホームページ　Facebook